

# 「食に関するアンケート調査」結果

県民の「食」についての考え方を把握するため、県政モニターによるアンケート調査を実施しました。

1 アンケート調査の実施時期 令和元年11月

## 2 県政モニター数

(1)一般モニター(郵送によるアンケート調査)	229人
(2)インターネットモニター(電子メールによるアンケート調査)	162人
合計	391人

## 3 回答数

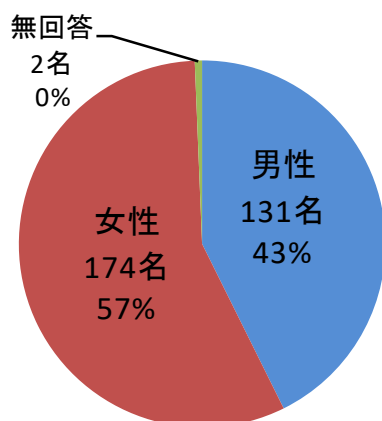
(1)一般モニター(郵送によるアンケート調査)	185人(回答率 80.8%)
(2)インターネットモニター(電子メールによるアンケート調査)	122人(回答率 75.3%)
合計	307人(回答率 78.5%)

## 4 集計結果

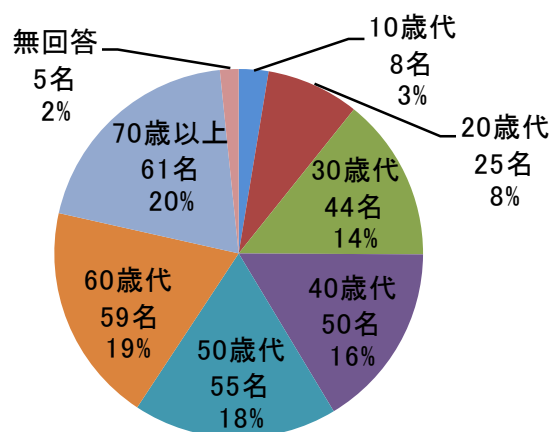
※集計結果は、合計を100%にする端数処理の関係上、1%未満の範囲で異なっているケースがあります。

【問1】あなた自身のことについてお伺いします。(回答者 307人)

### <①性別>



### <②年齢>



<③家族構成(同居している家族)>

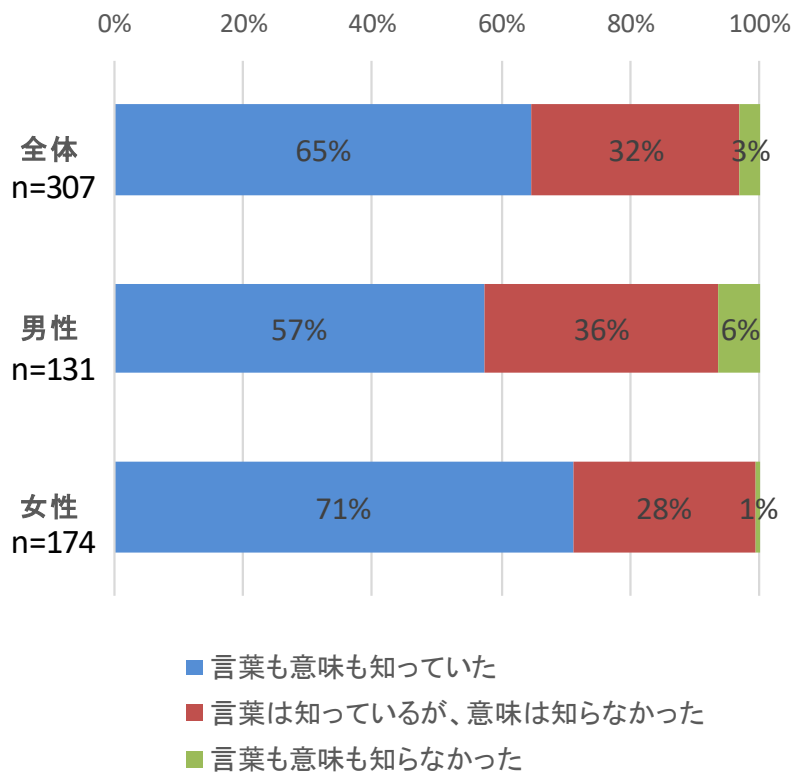
ひとり暮らし	24名	8%
配偶者	79名	26%
配偶者・子ども	99名	32%
子ども	17名	6%
親	33名	11%
親・配偶者・子ども	16名	5%
親・子ども	7名	2%
その他	31名	10%
無回答	1名	0%
合計	307名	100%

## 1 食育について

【問2】あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(回答者 307名)

「食育」という言葉を知っている人は全体の97%、「食育」の意味を知らない人は35%でした。

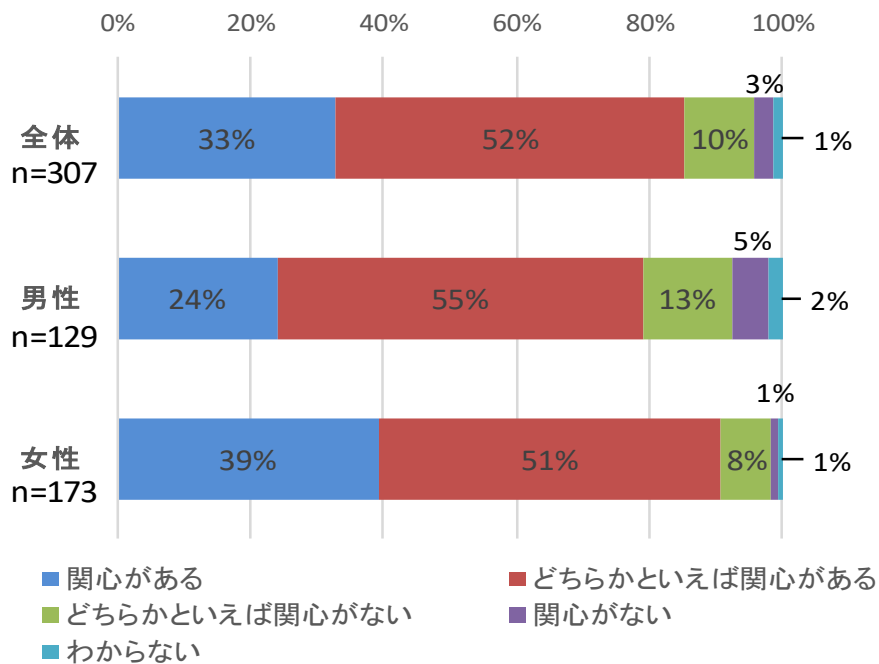
男性と女性を比較すると、女性の方が「食育」の意味を知っている人の割合が14%高くなっていました。



【問3】あなたは「食育」に関心がありますか。(回答者 307名)

「食育」に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人は全体の85%でした。

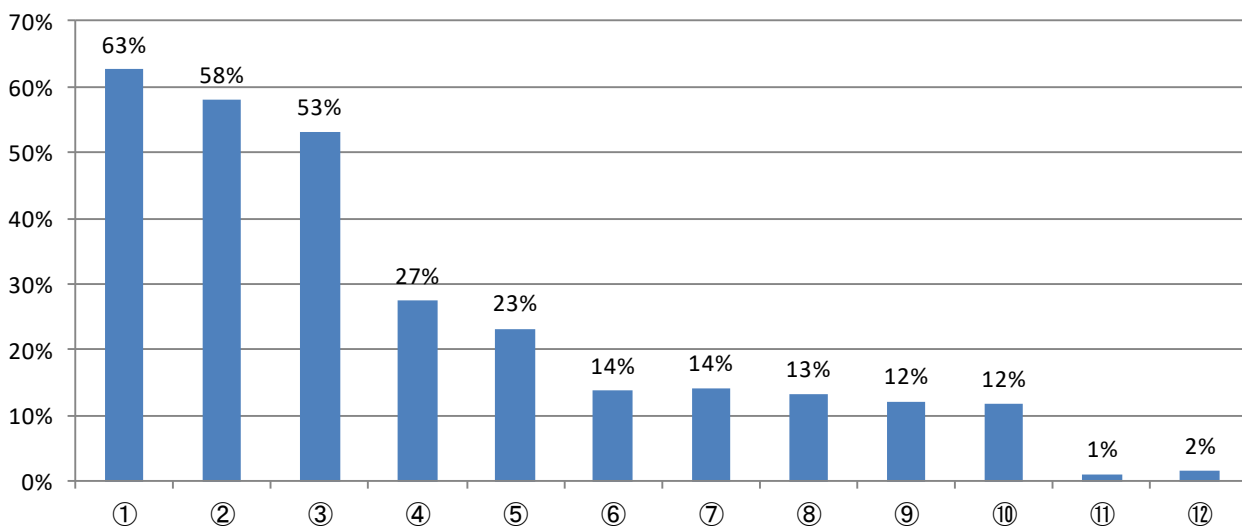
男性と女性を比較すると、女性は90%が「食育」に関心を持っており、男性に比較して11%割合が高くなっていました。



【問4】あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。

【問3】で「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人に聞きました。（3つまで選択、対象者 262名）

「子どもの心身の健全な発育に必要なだから」との理由が63%と最も多く、次いで「食生活の乱れが問題になっているから」が58%、「生活習慣病の増加が問題になっているから」が53%の順になっていました。

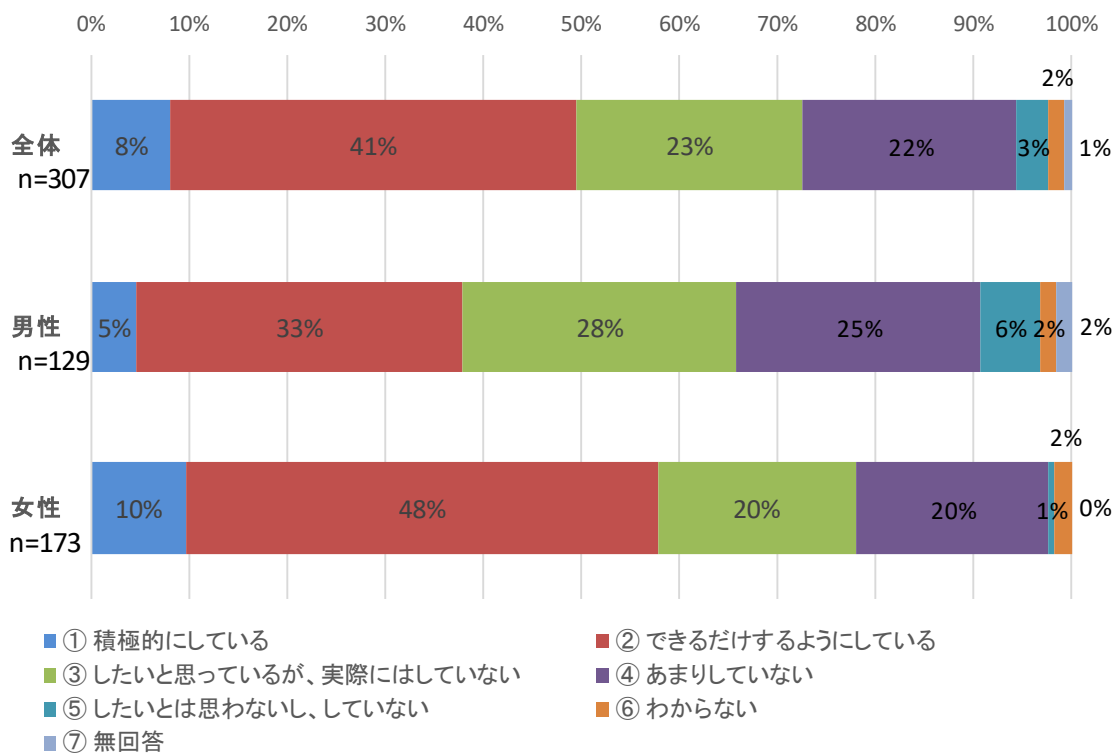


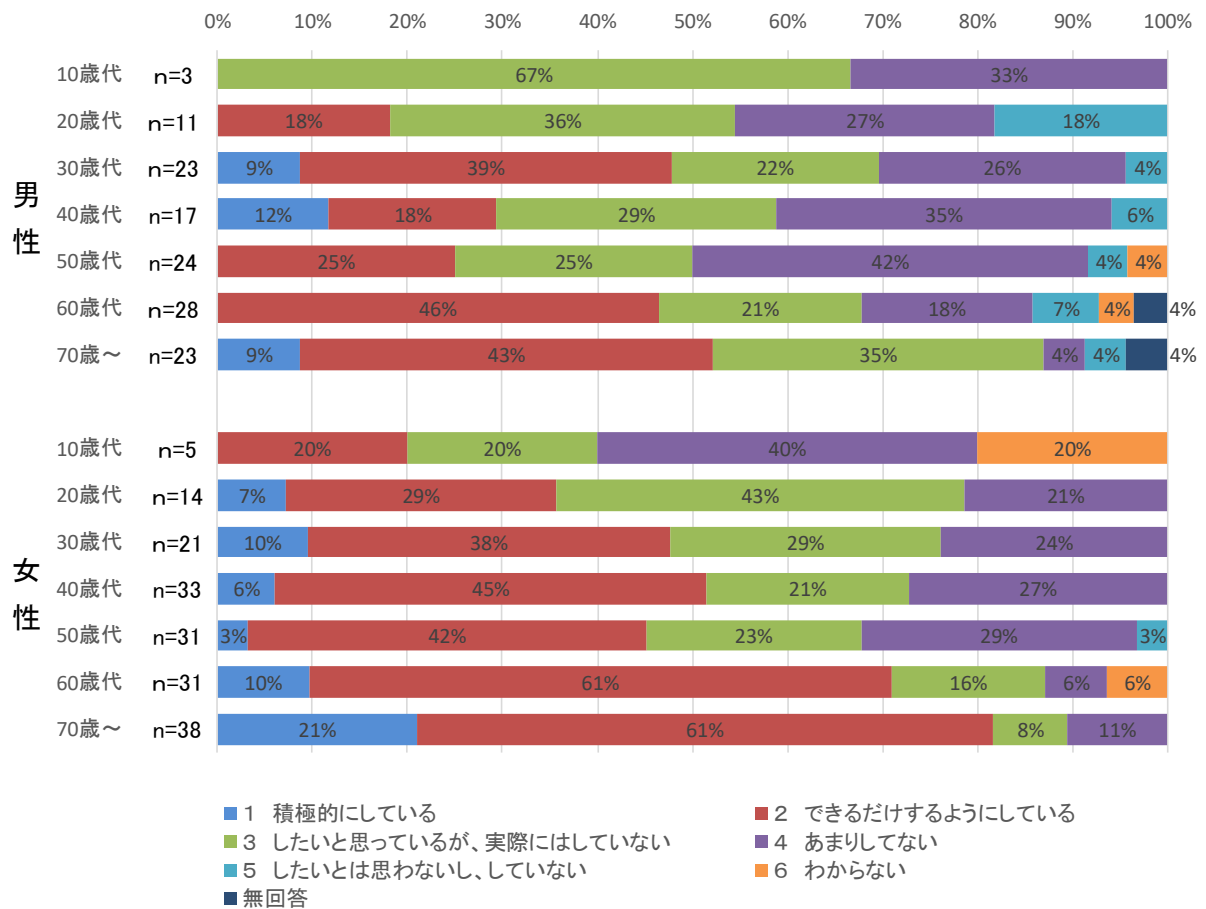
①	子どもの心身の健全な発育のために必要だから	164名
②	食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事など)が問題になっているから	152名
③	生活習慣病(がん、糖尿病など)の増加が問題になっているから	139名
④	食品廃棄物の発生抑制(食品ロスの削減)が必要だと思うから	72名
⑤	自然の恩恵や食に対する感謝の念がうすれているから	61名
⑥	食に関する地域の文化や伝統を守ることが重要だから	36名
⑦	食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから	37名
⑧	肥満ややせすぎが問題になっているから	35名
⑨	有機農業など自然環境と調和した食料生産が重要だから	32名
⑩	食中毒防止や食品への異物混入対策など、食品の安全確保が重要だから	31名
⑪	消費者と生産者間の交流や信頼関係が足りないと思うから	3名
⑫	その他	4名
⑬	無回答	1名

【問5】あなたは日頃から、健全な食生活を行うために何らかの「食育に関する活動」をしていますか。(回答者 307名)

食育に関する活動に「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と答えた人は全体の49%でした。特に女性は、58%が「積極的にしている」「できるだけするようにしている」との回答でした。

年代別では、男女とも60歳以上の年代で、他の年代に比較して食育に関する活動を行っている人の割合が高い傾向でした。

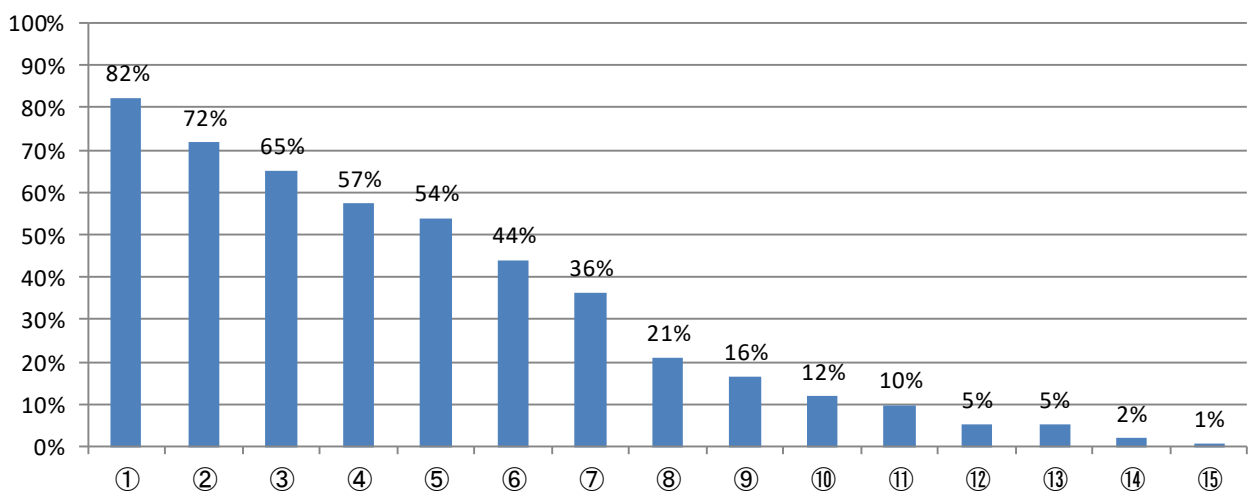




【問6】あなたはどのような「食育に関する活動」をしていますか。

【問5】で「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と答えた人に聞きました。  
(いくつでも回答、対象者 152名)

「栄養バランスのとれた食生活の実践」が82%と最も多く、次いで「自分で食品を選んだり、料理をする」が72%、「家族で食事をする」が65%の順になっていました。

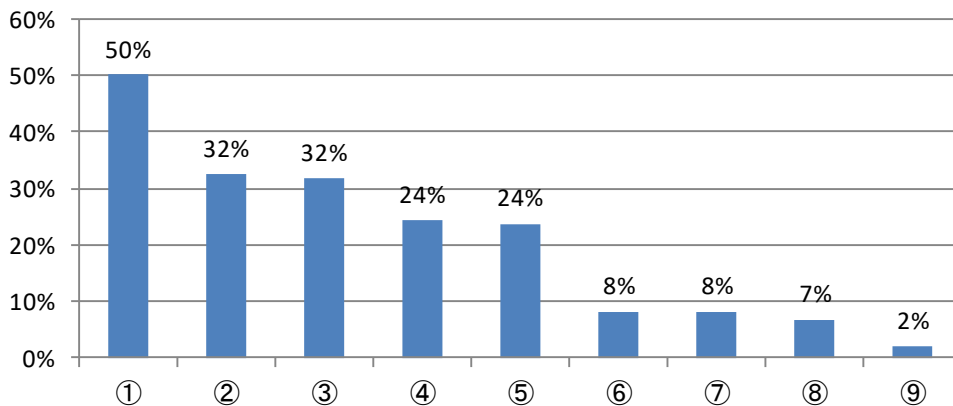


①	栄養バランスのとれた食生活の実践	125名
②	自分で食品を選んだり、料理する	109名
③	家族で食事をする	99名
④	より安全な食品の購入	87名
⑤	自分にとっての望まれた食生活を理解	82名
⑥	食品廃棄物の発生抑制(食品ロス削減)や再利用に関する理解の向上	67名
⑦	地元産農畜産物の積極的な利用	55名
⑧	郷土食など食文化の継承	32名
⑨	食料自給状況に関する理解向上	25名
⑩	食生活の改善に関する勉強会への参加	18名
⑪	農業生産・加工活動への参加・経験	15名
⑫	食に関する伝統行事への参加	8名
⑬	食に関するボランティア活動への参加	8名
⑭	その他	3名
⑮	無回答	1名

【問7】「食育に関する活動」をしていない理由は何ですか。

【問5】で「したいと思っているが、実際にはしていない」、「あまりしていない」、「したいとは思わないし、していない」と答えた人に聞きました。(3つまで選択、対象者 148名)

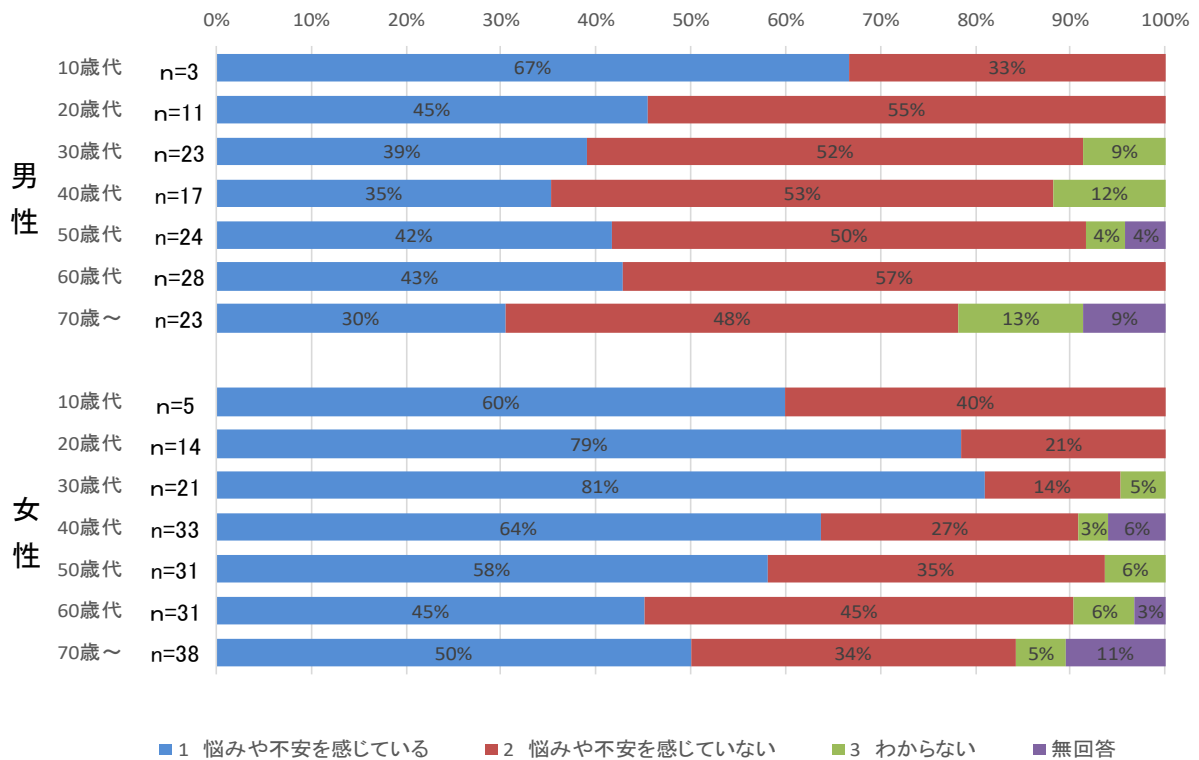
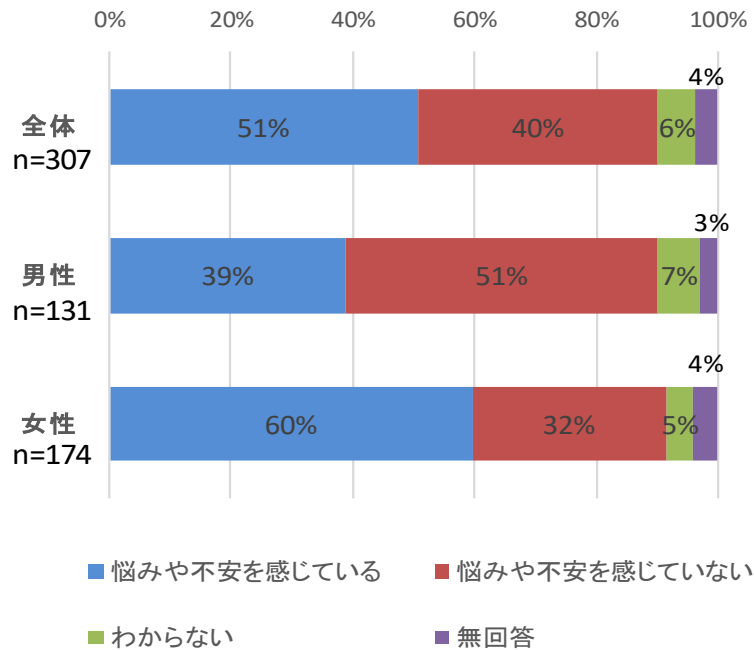
「仕事や趣味等で忙しいから」との理由が50%と最も多く、次いで「特に意識しなくても問題ないから」が32%、「食費を安くすることの方が重要だから」が32%の順になっていました。



①	仕事や趣味等で忙しいから	74名
②	特に意識しなくても問題はないから	48名
③	食費を安くすることの方が重要だから	47名
④	活動や行動をしたいと思うが、情報が入手できないから	36名
⑤	「食育」についてよく知らないから	35名
⑥	わからない	12名
⑦	その他	12名
⑧	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	10名
⑨	無回答	3名

【問8】 あなたは、日頃の食生活での悩みや不安がありますか。(回答者 307名)

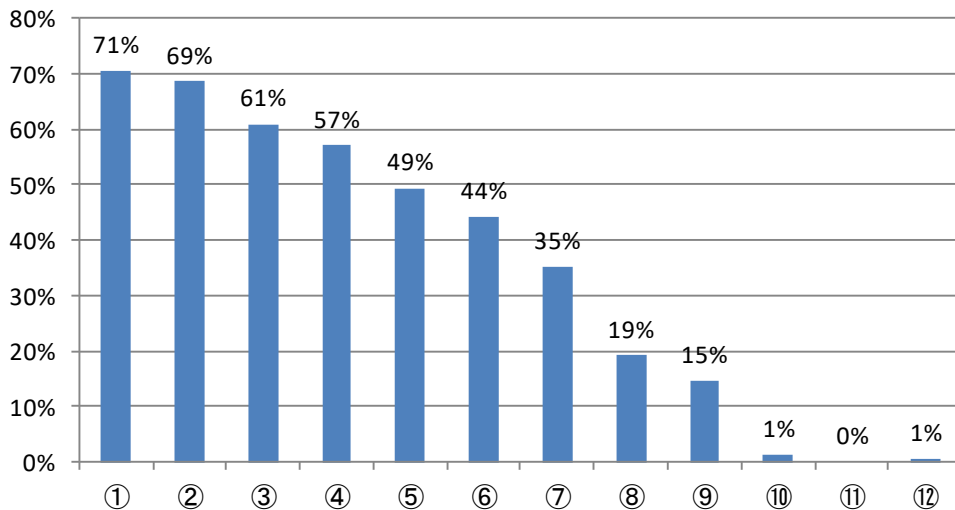
「悩みや不安を感じている」と答えた人は全体の51%、「悩みや不安を感じていない」と答えた人は40%でした。  
 一方、女性は60%の人が日頃の食生活に悩みや不安を感じており、特に女性の20歳代、30歳代は80%程度の人が悩みや不安を抱えていました。



【問9】 悩みや不安を感じているのは、どのようなことについてですか。

【問8】で「悩みや不安を感じている」と答えた人に聞きました。(いくつでも回答、対象者 156名)

「家族の健康について」「自分の健康について」が71%、69%と多く、次いで「食品の安全性について」が61%となっていました。



①	家族の健康	110名
②	自分の健康	107名
③	食品の安全性	95名
④	家族の食習慣の問題(栄養バランスの偏り、不規則な食事等)	89名
⑤	家計や食費	77名
⑥	自分の食習慣の問題(栄養バランスの偏り、不規則な食事等)	69名
⑦	将来の食料供給	55名
⑧	食に関する情報の氾濫	30名
⑨	食文化の継承	23名
⑩	その他	2名
⑪	わからない	0名
⑫	無回答	1名

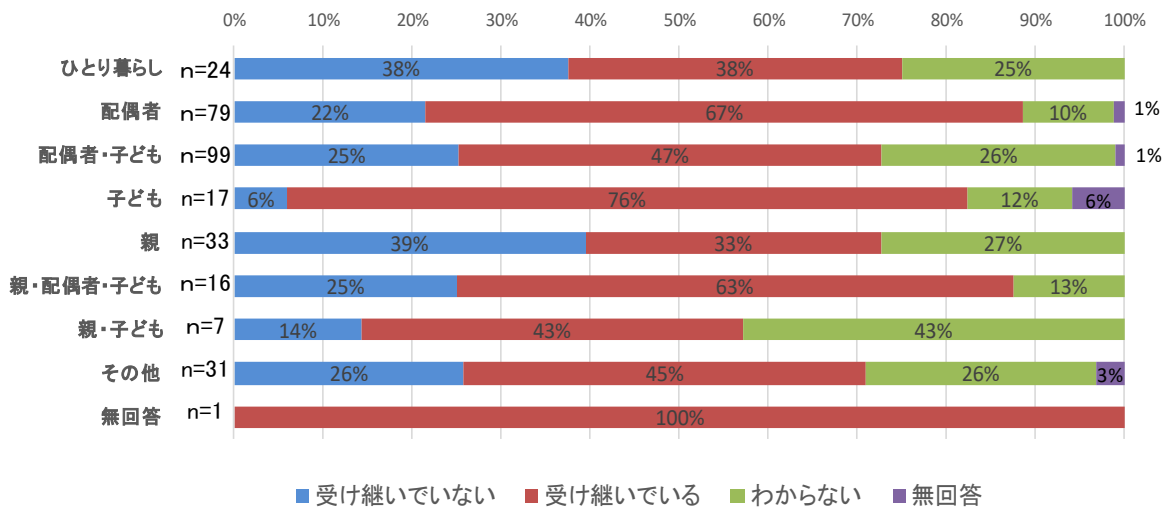
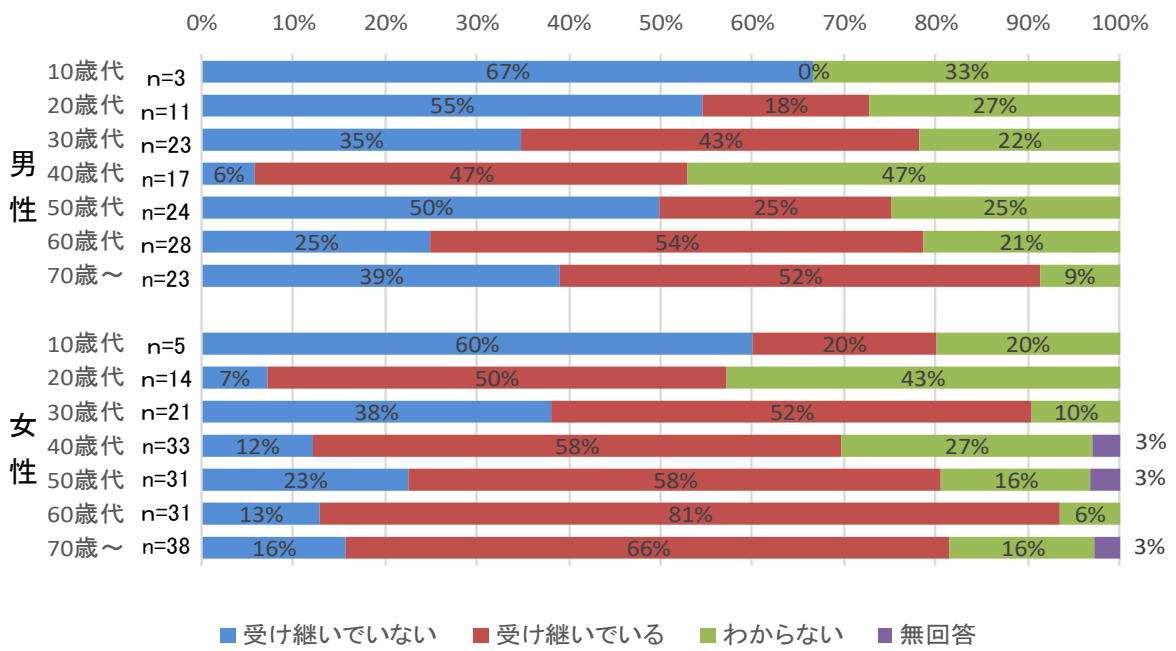
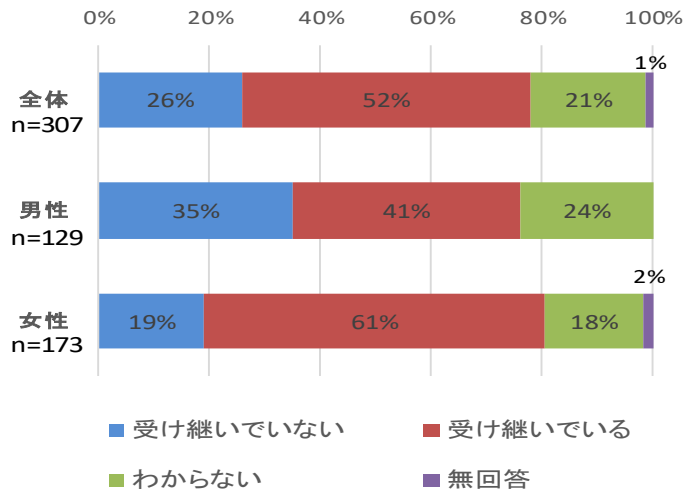
【問10】 あなたは、郷土食や伝統食など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(回答者 307名)

「受け継いでいる」と答えた人が全体の52%でした。特に女性は61%が「受け継いでいる」との回答でした。

年代別では、男女とも60歳以上の年代で、他の年代に比較して「受け継いでいる」との回答が多い傾向でした。

家族構成別では、明確な傾向は見られませんでした。

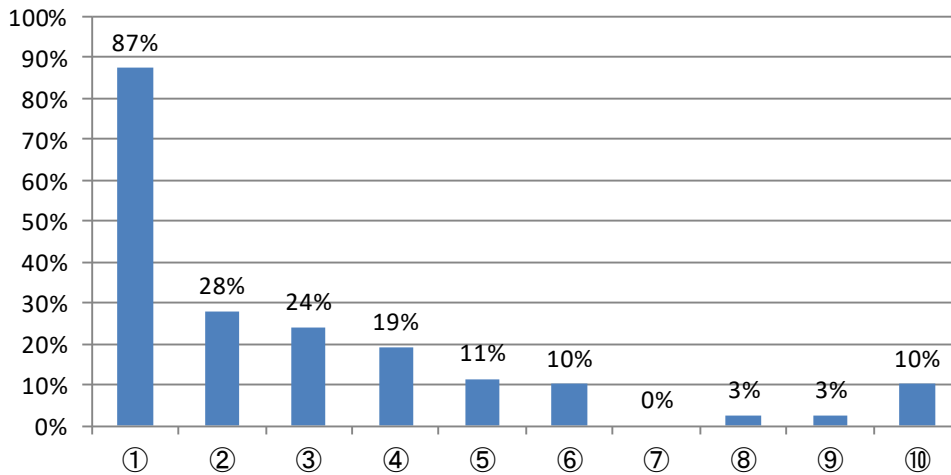




【問11】 あなたは、郷土食や伝統食など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【問10】で「1 受け継いでいない」と答えた人に聞きました。(3つまで選択、対象者 79名)

「親等から家庭で教わること」と答えた人が全体の87%で、他の項目と比較して特に多い傾向でした。

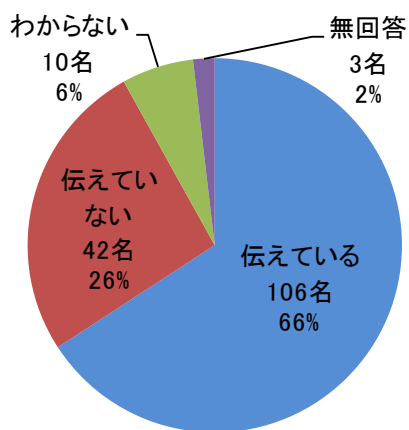


①	親等から家庭で教わること	69名
②	地域コミュニティで教わること	22名
③	子供の頃に学校で教わること	19名
④	食に関するイベント等で教わること	15名
⑤	結婚、出産など人生の節目で教わること	9名
⑥	書籍やテレビ等のメディアで教わること	8名
⑦	受け継ぐ必要はない	0名
⑧	わからない	2名
⑨	その他	2名
⑩	無回答	8名

【問12】 あなたが郷土食や伝統食など、地域や家庭において受け継いできた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代(子どもや孫を含む)に対し伝えていきますか。

【問10】で「2 受け継いでいる」と答えた人に聞きました。(対象者 161名)

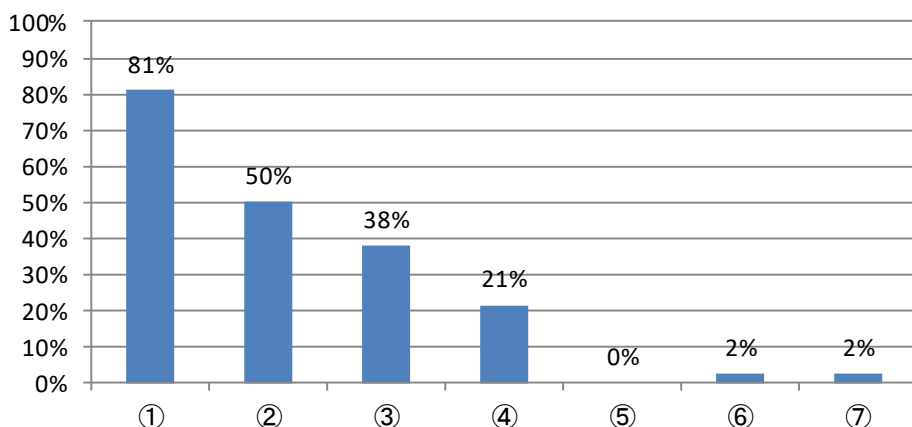
「伝えている」と答えた人が全体の66%、「伝えていない」と答えた人は26%でした。



【問13】 あなたが今後、郷土食や伝統食など、地域や家庭において受け継いできた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を伝えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【問12】で「2 伝えていない」と答えた人に聞きました。(3つまで選択、対象者 42名)

「家庭で伝える機会を持つこと」が81%と最も多く、次いで「学校で伝える機会があること」が50%、「地域で伝える機会があること」が38%の順になっていました。



①	家庭で伝える機会を持つこと	34名
②	学校で伝える機会があること	21名
③	地域で伝える機会があること	16名
④	一緒に活動する仲間がいること	9名
⑤	伝える必要はない	0名
⑥	機材等が整っていること	1名
⑦	その他	1名
⑧	無回答	0名

【問14】 山梨県の郷土食(伝統食)として、「ほうとう」の他に何か知っていますか。また、その食品を食べたこと、作ったことがありますか。(回答者 307名)

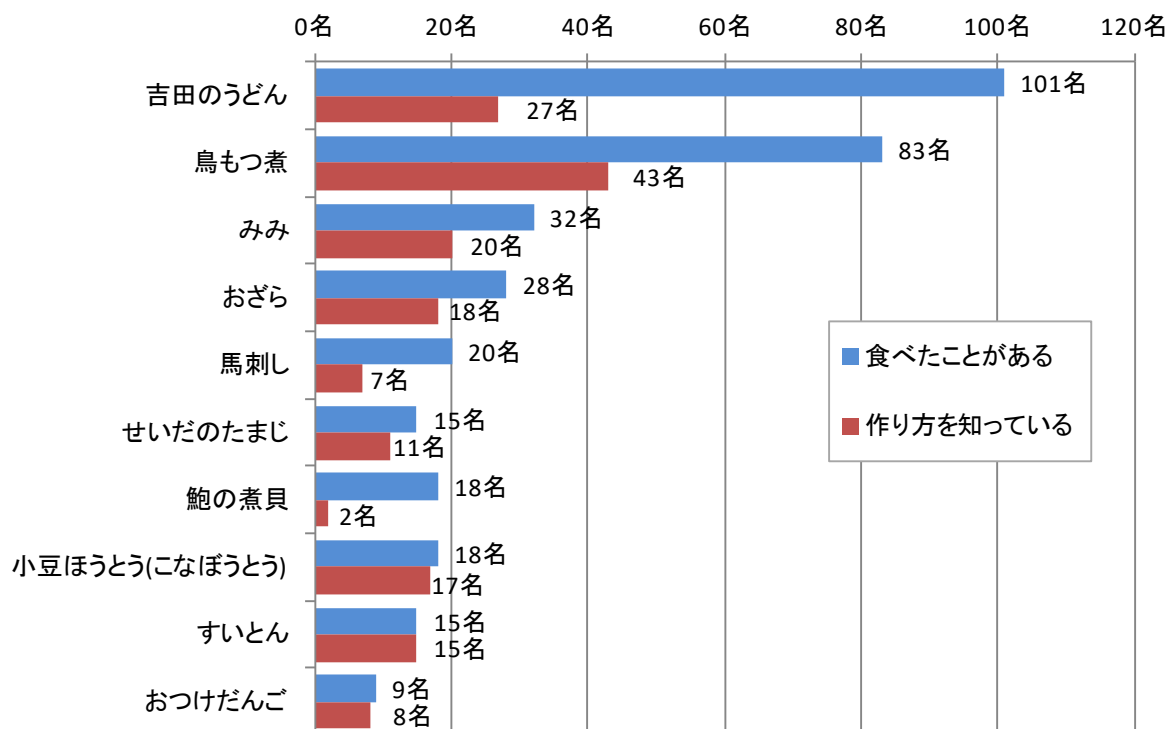
「ほうとう」以外の山梨県の郷土食(伝統食)として、510件、70品目の回答がありました。

「食べたことがある」又は「作り方を知っている」郷土食は、「吉田のうどん」「鳥もつ煮」「みみ」「おざら」が上位となりました。

<知っている郷土食(伝統食)>

	郷土食名	回答数
1	吉田のうどん	108
2	鳥もつ煮	88
3	みみ	49
4	おざら	30
5	馬刺し	21
6	せいだのたまじ	20
7	鮑の煮貝	18
7	小豆ほうとう(こなぼうとう)	18
9	すいとん	15
10	おつけだんご	14
11	干し柿(あんぼ柿・ころ柿)	12
11	甘納豆赤飯	12
13	薄焼き	6
13	やこめ	6
13	酒まんじゅう	6
13	信玄餅	6
13	カツ丼	6

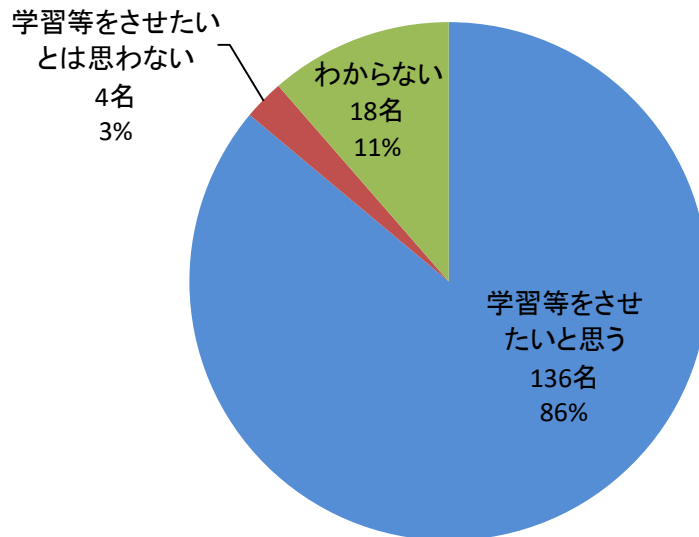
<「食べたことがある」又は「作り方を知っている」郷土食(伝統食)>



【問15】 あなたは、子どもあるいは、孫に土や自然にふれる農業体験や家畜に親しむ体験学習等をさせたいと思いますか。

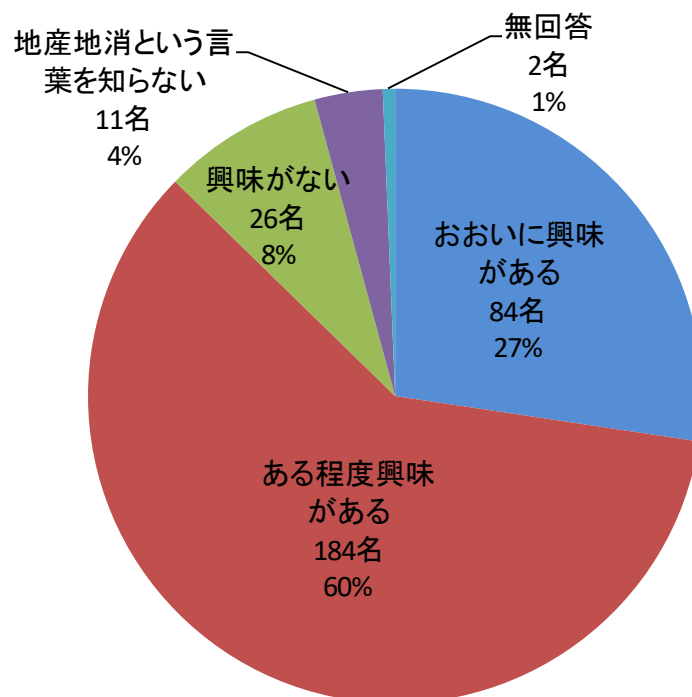
現在、中学生以下の子ども、あるいは孫がいる人に聞きました。(対象者 158名)

「学習等をさせたいと思う」と答えた人が全体の86%でした。



【問16】 あなたは、地産地消の取組に興味がありますか。(回答者 307名)

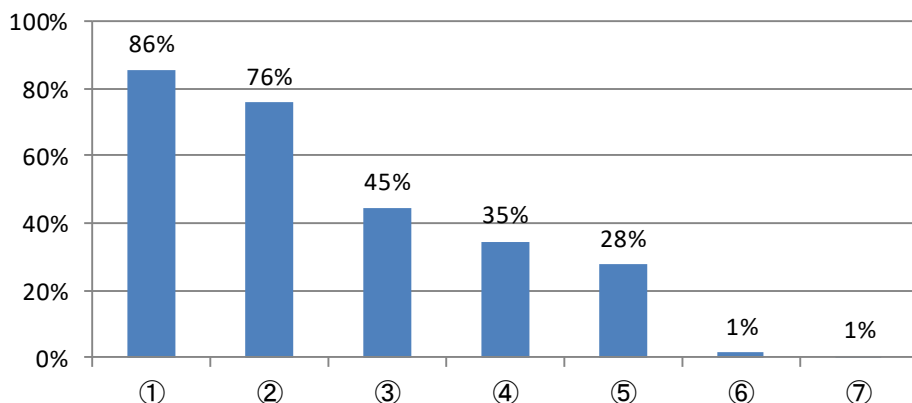
「おいに興味がある」「ある程度興味がある」と答えた人が全体の87%でした。



【問17】 地産地消の魅力は何ですか。

【問16】で「1 おおいに興味がある」「2 ある程度興味がある」と答えた人に聞きました。  
(3つまで選択、対象者 268名)

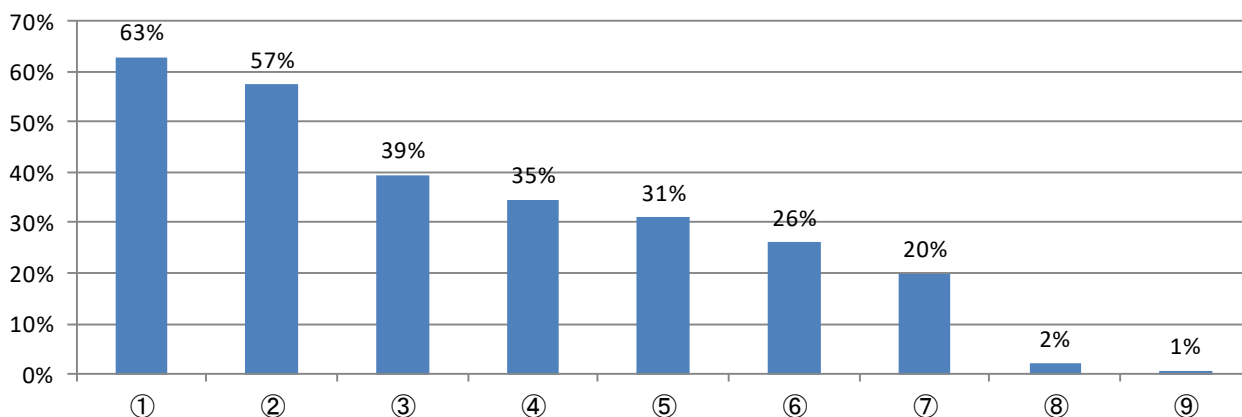
「産地と距離が近いこと、新鮮な農産物が手に入る」が86%と最も多く、次いで「地元産農産物の利活用を通じて、地域農業の活性化につながる」が76%でした。



①	産地と距離が近いこと、新鮮な農産物が手に入る	230名
②	地元産農産物の利活用を通じて、地域農業の活性化につながる	203名
③	安全で安心である	120名
④	輸送経費が低減され安く農産物が手に入る	93名
⑤	地域の農業や伝統的な食文化などに対する理解が深まる	74名
⑥	その他	4名
⑦	無回答	2名

【問18】 地産地消の推進には、どのような取り組みが有効だと思いますか。(3つまで選択、回答者 307名)

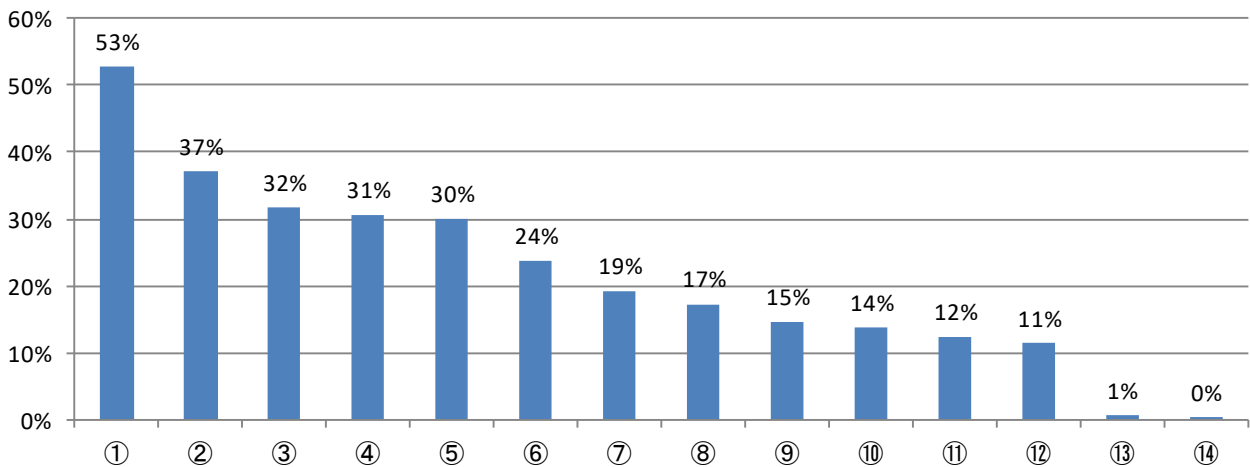
「直売所の魅力アップを支援する」が63%と最も多く、次いで「学校給食への県産農産物の利用拡大を行う」が57%でした。



①	直売所の魅力アップを支援する	193名
②	学校給食への県産農作物の利用拡大を行う	176名
③	新聞、パンフレットやインターネット等を通じた地元産農産物の情報を提供する	121名
④	生産者と消費者とがイベントに取り組む	106名
⑤	地域の特色ある農産物を認証し、周知する制度に取り組む	95名
⑥	生産者、食品事業者、消費者等が幅広く参加した地産地消県民運動を展開する	80名
⑦	農業体験活動を通じて「食」とそれを支える「農」への理解・愛着を提供する	61名
⑧	その他	6名
⑨	無回答	2名

【問19】 あなたは、今後の「食育」では、どのようなことが重要だと考えますか。（3つまで選択、回答者 307名）

「栄養バランスのとれた食事の実践」が53%と最も多く、次いで「食卓を囲む家族団らんの実践」が37%でした。

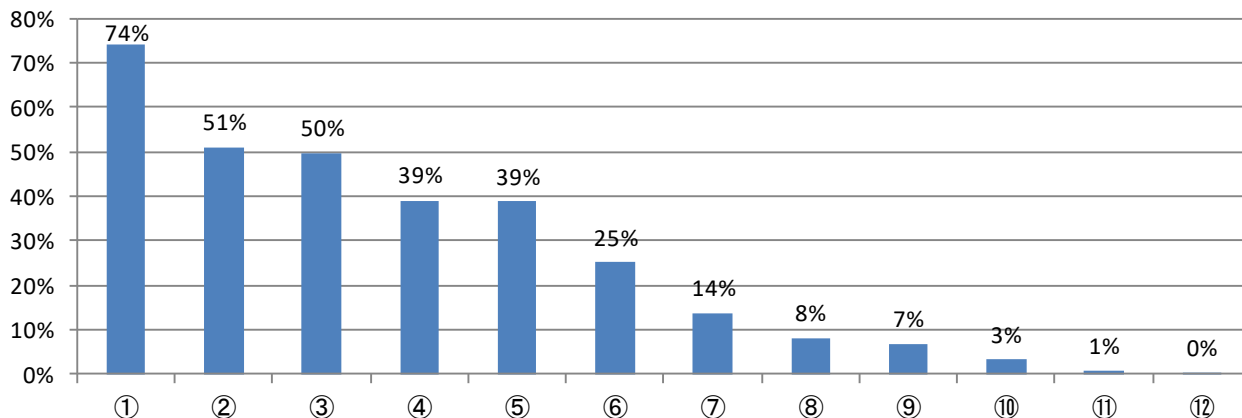


①	栄養バランスのとれた食事の実践	162名
②	食卓を囲む家族団らんの実践	114名
③	地域農産物や旬の食材などの知識の習得	97名
④	農業への理解や食への感謝の気持ちを育てること	94名
⑤	規則正しい食生活リズムの実践	92名
⑥	食べ残しや食品の廃棄をなくす	73名
⑦	おいしさや楽しさなど食を通じた心の豊かさを育てる	59名
⑧	食事の正しいマナーや作法などの習得・教育	53名
⑨	地域性や季節感のある食事、行事食の実践	45名
⑩	安全な食材を正しく選択できる能力の育成	42名
⑪	郷土食など食文化の伝承	38名
⑫	調理方法の習得	35名
⑬	その他	2名
⑭	無回答	1名

## 2 食の安全・安心について

【問20】 食品の安全性に関する情報をどこから得ていますか。(回答者 307名)

「テレビ・ラジオ」が74%と最も多く、次いで「新聞」が51%、「インターネット」が50%の順になっていました。



①	テレビ・ラジオ	227名
②	新聞	157名
③	インターネット	153名
④	スーパー、小売店などの売り場	120名
⑤	家族や友人などからの口コミ	119名
⑥	書籍、雑誌	77名
⑦	行政機関(県、市町村など)の情報	42名
⑧	学校での教育	25名
⑨	消費者団体	21名
⑩	特にない	10名
⑪	その他	2名
⑫	無回答	1名

【問21】 県で実施している食の安全や安心の実現のための次の事業、制度についてご存じですか。(回答者 307名)

「かいじ号」を知っている人は23%、「食品安全110番」を知っている人は17%、「食の安全・安心ポータルサイト」を知っている人は14%、「食の安全・安心を語る会」「食品表示ウォッチャー」を知っている人は12%でした。

